

604) 美味しいトマト

小生はトマトが大好きである。トマトに含まれているクエン酸は疲労回復に効果があるという。そこで田舎に草刈に行くときはよくトマトを持参して、これをたらふく食べて帰ってくることも多い。それはさておき田舎の土地には家もなければトイレもない。あるときトイレをもようしたくなって、シャベルで穴を掘って、そこで用を済ませることにした。

それから数ヶ月が経ったあるとき、再び田舎に草刈に行くとトマトの苗がかなり育っていた。その場所は思い当たるフシがある。かつて用を足した場所である。どうやら種子が消化されずに発芽したのだろう。またしばらく経ってそこへ行くと、トマトが実をつけていた。それもうっすらと黄色く色づいている。翌週バアさんを連れてそこへ行ってみると、トマトはスツカリ熟していた。バアさんは喜んでトマトを収穫し、家に帰ると、サラダに混ぜてうまそうに食っていたが、小生はどうしても箸が進まなかった。論理的には全く問題のない美味しいトマトである。しかしこのトマトの出自を知っている小生には、どうも気が進まなかった。この話はバアさんには口が避けても言うことのできない永遠の秘密である。